

KSKS

No. 126

23. 8. 28

# ゆいゆい通信



編集人 社会福祉法人 寧楽ゆいの会  
〒631-0823 奈良市西大寺国見町3-5-5  
TEL/FAX 0742-41-6039  
URL <http://narayuinokai.or.jp>

定価 1部50円  
年間 300円

## ◆法人からの報告

「緊急時対策 検討中」  
理事 大田 雅子 … 1

## ◆Reports

◇法人研修 … 2  
◇法人決算報告 … 3～5

## ◆Reports

さわやぎ/きらく舎 … 6  
生訓こもれび/相談こもれび … 7  
防災部 … 8

## ◆Thanks

後援会費納入者 … 8

## 待ったなしの緊急時対策 法人の取り組みの現状

長い梅雨が明け、容赦ない暑さと共に夏がやってきました。報道によると今年の夏の気温は全国的に平年より高く、猛暑となるとのこと。価格高騰により電気代は大いに気になりますが、健康や命を守るための対策は欠かせません。

6月には大雨警報が出たため、ほとんどの事業所が臨時閉所をするなどして対応をしました。

これから台風の季節も到来します。緊急時の情報共有や、「災害対策本部」の役割や立ち上げのタイミング、対応に関する指示命令系統について、再度確認をしているところです。

また、昨年度災害時に対応したBCP(事業継続計画)を作成しましたが、今年度は引き続き感染症事案に対応したBCPを「防災部」が急ぎ作成しています。新型コロナウイルス感染症は5類になり、国の基準や制限が緩和された今だからこそ、法人としての指針や対応策について協議し全体で共有しておく必要があります。

(大田雅子)

## 法人の動き

### 【5月】

- ◆監事監査(17日)
- ◆理事会開催(24日)
  - ☞事業報告、2022年度監事監査報告・収支報告・事業報告、内規改訂案、次期役員の推薦案等について承認を得ました。
- ◆委託相談支援事業・地域活動支援センターが概算払いから実績払いになることに関する申し入れ(18日・奈良市)
- ◆指定特定相談支援事業所「アーチ」開設(6月号にて掲載)

### 【6月】

- ◆評議員会(13日)
  - ☞事業報告、2022年度監事監査報告・収支報告・事業報告、内規改訂案について承認を得ました。
  - 理事の改選があり、笠井清佑氏が退任、森口弘美氏が着任となりました。
- ◆法人職員研修(24日・2面にて掲載)
- ◆エリアごとに利用者に対する防災学習会を開催(6面にて掲載)
- ◆さわやぎの改修工事に向け、運営内容についての検討開始(あり方WT)

Reports

研修部

地域に必要とされる法人になるために  
2023年度 第1回法人研修

2023年度第1回法人研修を6月24日(土)に開催しました。午前には、ゆいの会の事業と実践の歴史を振り返り、地域における福祉課題と事業の展望を考えるため、ゆいの会評議員で、奈良県手をつなぐ育成会会長でもある小西英玄(こにし ひではる)さんをお招きし評議員・家族の立場からゆいの会や地域のソーシャルワーク実践についてお話してもらいました。午後は、昨年度の法人研修に引き続き「地域での実践展開」について検討しました。

◆さまざまな立場から見えること

小西さんは、知的障がいを持つ子の親として「なければつければいい」という発想のもと、居場所や働く場所としてグループホームやリサイクル事業所などの社会資源をゼロから作ってきました。また精神障がい者の友愛バス優待乗車証・精神障害者医療費助成事業の財源確保といった社会運動も展開してきました。

を大切にできているか?」など、自身の支援を振り返る声が多くあがりました。

◆“今できること”を明確に

昨年度の法人研修で、法人理念の実現のために目指す実践として“地域に必要とされる事業所(法人)”になることが共通意見としてあがりました。今回はその続きで“地域に必要とされる事業所(法人)”になるための現実的な目標について検討しました。4グループに分かれ、マンダラチャートを用いて意見を出し合いました。

「透明性がある」「地域のことを理解している」「地域とのつながりがある」「職員が健康で体力・エネルギーがある」など、共通の言葉もあがりました。年代や経験値が異なる職員同士で、また事業所や立場によって視点や切り口が違う中でも、誰もが安心して暮らせるような働きかけを大切にしていこうとする想いは共通していることが分かりました。

▶ 熱い講演に引き込まれます

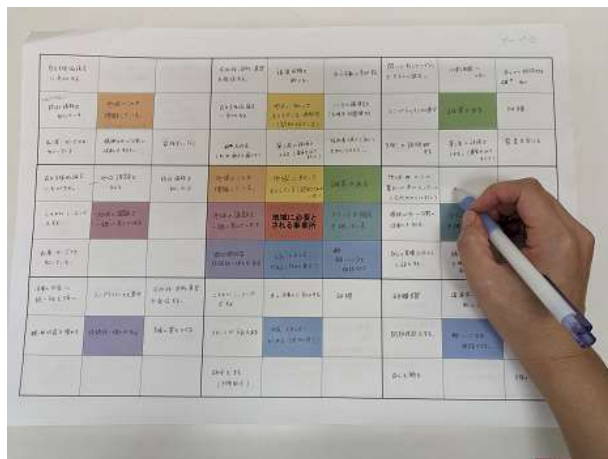


まず理事の立場から、経営面での考え方や『ゆいの会活動概要』の発行について、利用者の顔が見える法人であると評価をもらいました。

当事者の立場からは「体験して初めてわかることがある」とのお話がありました。小西さん自身が治療を受ける立場になり、病気の影響から障害者手帳を取得。治らない病気を抱えるしんどさを経験したことから、疑似体験はできても終わらない不安を体験することはできないと思ったそうです。

そして家族の立場から、福祉の“福”を“服”に例えたお話がありました。人それぞれ似合う色、形がありサイズも異なっている。10人いれば10通りのアプローチがある。福祉に携わる人には、知識・技術・経験に加え、似合う服を見つけられるセンスが必要。その人に合った着こなしを考えてオーダーメイドの支援をしてほしいとのメッセージをもらいました。

スタッフからは、「小西さんほどのエネルギーを持って自分は働いているのか?と思った」「自分たちの実践を見てくれている人がいるのだと知って、励みになった」「十人十色の支援。自分は型にはめた支援をしていないだろうか?」「体験では分からない分、利用者のお話をよく聴き、教えてもらう姿勢



▶ マンダラチャートを使うと 漠然とした思考が整理されます。

小西さんから語られた、「生きづらさを抱える人が生活しやすいまちは、誰もが生活しやすいまちになる」といった“福祉で街づくり”のキーワードは、ゆいの会の法人理念にもつながります。

現在行なっている取り組みがどのような意味を持っているのか、地域で働くソーシャルワーカーとして明日からできることは何か、日々の実践を振り返り、それぞれの想いを共有できた1日でした。

(山田江梨)